

## ～ 今月の図書案内 ～

梅がほころび始めました。春は近いですね。

図書館では「Book of the year 2020 特集」「毎日出版文化賞特集」をしています。この機会に、今まで読んだことのなかった一冊に手を伸ばしてみてください。

### ★今月の新着おすすめ本



#### 「ドラえもんを本気でつくる」 大澤 正彦

現在は研究者で、子どもの頃から「ドラえもん」を作る夢を持っていた著者が、自身のロボット作りの取り組みを詳しく書いています。人工知能やAIについてわかりやすく説明し、人に愛されるロボットとはどのようなものか、など興味深い内容が満載です。読むと著者が現在行っている「ミニドラ」作りを応援したくなってしまいます本です。



#### 「ザ・ロイヤルファミリー」 早見 和真

馬主としての栄光を夢見たワンマン社長とその夢を継いだ息子を、二人を支えた秘書から見た、一族の栄光と挫折の日々を描いています。競走馬に魅せられた人々の想いや、手に汗握る白熱のレース展開に心躍らされる力作です。馬事文化賞・山本周五郎賞受賞。

#### 「火定（かじょう）」 澤田 瞳子

天平時代、遣新羅使により入った疫病は瞬く間に都を襲う。貴族が難を逃れようと去る中で、施薬院の医師たちは治療法もわからぬまま奮闘していた。人々の恐れはまじない札にすぎるまでになっていく。医師とは？生きるとは？絶望から希望を見いだす手がかりは？どんな時代でも懸命な姿があります。



#### 「臆病な都市」 砂川 文次

鳥の不審死から「新型感染症」の噂は、感染の専門家の否定にも関わらず広まっていく。首都庁に勤めるKは、鎮静化に向け淡々と仕事をこなし、市民に無関心だった。組織の規律とその支配で善意から生まれた市民の暴走。知らぬ間に渦中にいたKのとるべき行動を考えさせられました。



#### 「お探し物は図書室まで」 青山 美智子

お探し物は本ですか？仕事ですか？人生ですか？悩める人々がふと立ち寄った小さな図書室。本の相談をすると、不愛想だけど聞き上手な司書はレファレンスを始め、本のリストと一緒に羊毛フェルトを「本の付録」として渡す。一風変わった選書と可愛い付録で人生を後押し、自分が本当に探しているものに気づかせる心温まる連作短編集。



#### 「クスノキの番人」 東野 圭吾

不思議な力を持つクスノキとその番人・玲斗が織り成す心温まる物語。窃盗未遂で捕まった玲斗は、突然現れた伯母のおかげで示談が成立、釈放される代わりに150年以上前からあるクスノキの番人を命じられる。夜中にクスノキに祈念する人々の秘密に巻き込まれつつ、自分の生き方を模索。読後、安らぎと希望を感じ、ほっこりできる一冊。

開館時間 8:35～16:45(色つきの日は閉館日 予定は変更することもあります)

### ★図書館からのおすすめ本